

ごあいさつ —カモシカに出会った日—

東北大学医学部後援会副会長
尾股 健



仙台市内の青葉山に特別天然記念物のニホンカモシカが生息しているうわさは知っていたが、自分が遭遇するとは思わなかった。

2011年3月13日大震災の翌々日の日曜日である。震災直後で、電気、水道、ガスのライフラインはもとより、新幹線、電車、バスも動いていない時期であった。ガソリン不足から自家用車の通行もほとんど見られない青葉山のバス通りである（写真：カモシカの現れた斜面）。



通勤のため歩道を歩いていた昼時である。道路脇ののり面に、カモシカが一頭ひょっこり現れて道路を見ており、歩行者の私と目が合った。体長約1メートル、体毛は、白色、

灰色、灰褐色など混じり合っている。この時期は、まだ頻繁に大きな余震も続いていた。いったい何が起きているのかと問いかけ、視察に現れた風情であった。木の葉や草、笹などを食しているそうだが、食べ物が不足しているようではなかった。

その頃は、大地震と津波、福島第一原子力発電所の事故も報道され、今後どこまで被害が拡大するのか予想もつかない時期であり、みんなが食べ物にも事欠いていた時期である。そのことをカモシカに伝えたつもりである。数秒後に、カモシカはそうなのか、分かったよと、きびすを返して山中に戻っていった。突然の出来事であり、写真を撮ることはできなかった。したがって、写真は、後日出会った場所を写したものである。

仙台市内のすぐ近くに豊かな自然が残っていることを実感した。東北大学植物園にも現れているようである。青葉山は、天敵も少なくカモシカに良い生育環境にあるらしく毎年繁殖が確認されている。しかし、大地震は青葉山をも大きく揺らして、カモシカもおちおち寝てもいられなかったので無いかと思われる。

あらゆる生物は、成長期を経て、生殖期に至り、種の保存の役割を終えると、その生を終える。霊長類は、進化に従い、寿命が長くなり、生殖期を終えてからの、後生殖期が長くなっている。青葉山のカモシカも後生殖期のカモシ

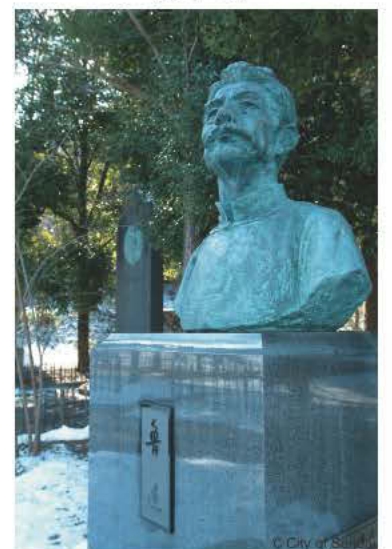
カだったのだろうか、その当時の人間よりも悠々と暮らしているように見えた。

信濃の国のある村の夫婦のライフサイクルを調査した鬼頭 宏さんによれば、第一子出産から末子成人（江戸時代は15歳、現在は20歳）までの子供扶養期間は、江戸時代は31年間で1990年は22年間で、現代は、ほぼ10年間子供扶養期間が短くなっている。しかし、最近の大学の改革は、大学院の充実、専門職大学院の開設やら、秋入学制度の検討など、学生の勉学期間が延長される傾向にある。子どもたちは否応なく、成長期から、成熟期を持つことを余儀なくされているようである。成長期の後の成熟期を10年間とすれば、保護者も江戸時代なみに30年間の子供扶養期間を覚悟せねばならないのであろうか。

このような時代にあっては、大学の学生支援に期待せざるを得ない。大学には、今後とも質の高い教育を継続してご提供いただきたいと願います。東日本大震災から1年11か月が過ぎ、大学も徐々に落ち着きを取り戻しつつあるように思いますが、それにしても、大震災の影響は大きい。

東北大学では、三条地区、上杉地区、川内地区などに応急の学生寄宿舎が設け

魯迅の像



られているし、学費の減免制度、奨学金の充実などもはかっていたが、保護者としては大変ありがたいことであると感謝している。東日本大震災の復興はまだまだ進んでいない。

被災を受けた子どもたちの教育まで考慮するととても長い支援が必要です。そのため大学には息の長い学生支援をお願いしたいと思います。

今後とも学生の教育の充実のため、この後援会も役立ててもらえれば幸いです。

中国の著名な文学者・思想家、本名は周樹人、22歳のとき日本（東北大学医学部の前身である仙台医学専門学校）に留学して医学を志したが、のちに文学に転じた。「狂人日記、華蓋正伝」など数々の小説や評論を発表した。

— 研究室（分野）紹介 —

保健学科・がん看護学分野

医学部保健学科看護学専攻

教授 佐藤富美子
准教授 柏倉 栄子
助教 佐藤菜保子

昭和56年から現在に至るまで、わが国の死亡原因の第1位はがんであり、国民の健康にとって重大な課題になっています。そのような現状をかんがみ平成19年4月に施行された「がん対策基本法」では、がんによる死亡数の減少とともに、全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上が目標に掲げられました。がん看護学分野では、それらの目標達成に向けて、がんに関する専門的な知識や技術を有する優れた医療専門職業人の養成と、その養成に貢献できる教育研究者の育成を目的としています。

本分野では、教授1、准教授1、助教1の体制で教育にあたり、2012（平成24）年度は、大学院博士後期課程2名、博士前期（修士）課程4名、卒業研究学生10名を指導しています。本分野の研究課題は「乳がん体験者の術後上肢機能障害の予防改善に向けた長期介入効果」、「化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応に関連する要因の検討」、「がん患者のオピオイド鎮痛薬の懸念と痛みのコントロールの関連」など、がん患者のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を高める支援の構築をめざす実践的なテーマが特徴です。

また、本分野の卒業研究ゼミは、学生が、がん看護に関する研究課題を見出し、研究計画立案に活かせる論文を探索すること、学術論文を批判的に吟味して自分の研究にどう活かせるか考察できることを目標にしています。実習期間以外は週1回集まり、読んだ論文についてプレゼンし議論します。ゼミ開始当初は発言が少なかった学生らも、学術論文を読み込んだ今では、互いに議論し合えるまでに成長しています。卒業後はゼミでの経験を活かし、医学や看護の最新の情報（学術論文）を取り入れた看護が実践できることを期待しています。

博士前期課程には、研究コースの他にがんや治療によるストレス・危機状況にある患者及び家族を看護する理論の探究、高度がん看護実践を自律して行える人材育成のための「がん看護専門看護師養成コース」を設けています。



2012年3月までの修了生は3名です。看護師を続けながら長期履修制度を活用し学ぶ人、退職して勉学に専念する人など背景は様々です。

学生の看護師としての経験と理論を統合し、高度ながん看護実践能力が修得できるようにゼミや実習の充実を図っています。修了後は、がん看護専門看護師資格認定に向けて東北がん看護専門看護師会と合同で事例検討会や専門看護師活動に関する情報交換を行う場を提供し、2011年に修了生で初となるがん看護専門看護師が誕生しました。東北地域のがん看護専門看護師は、他地域と比べて非常に少ないのが現状です。本学科卒業生に、がん看護スペシャリストの道が魅力的に思えるように、教育・研究の一層の充実化を図っていくことが課題です。

さらに本分野では現実的で、かつ根拠のある「がん看護」を考察していくために、医療関係者や学生と月1回勉強会を開催しています。勉強会は参加者による患者や家族への看護の振り返りや新知見の修得、参加者同士のネットワーク作りに貢献しています。



平成24年度医学部オープンキャンパスが開催された

医学部オープンキャンパス推進委員会

委員長 小野 栄夫
保健学科広報部会長 清水 律子

去る、平成24年7月30日（月）と31日（火）の2日間、東北大学医学部オープンキャンパスが星陵キャンパスにおいて開催されました。

平成23年度は東日本大震災の影響を残すなかでの開催でしたが、今回は、復興ムードも後押し、学生実行委員、推進委員、広報室、教務室など一致団結のもとに過去最高

の来場者数になる約5,000名を迎え、大盛況のうちに終わることができました。なお、医学部学生、教員及び職員の総意として、ここに医学部後援会からの御援助に心より感謝申し上げます。

◎医学科においては、今回も充実した企画を揃え、来場者に医学科を知ってもらおう内容となりました。大学の講義・実習を体験する「模擬講義」、「実験実演コーナー」、「救急体験コーナー」、さらに艮陵会館に移動したスキルスラボにて「実技体験コーナー」を行い好評でした。また、「医学部案内ツアー」では、研究現場、最新の研究・治療機器などを見学しました。医学生による解説付きの「ビデオ上映コーナー」、高校生のだんな質問にも答えた「入試体験コーナー」には多くの高校生が詰めかけました。

今年は医学部に関連する「エコチル」、「東北メディカル・メガバンク」、「災害科学国際研究所」からの出展やオープンキャンパス特別講演会では、外部からの講師を招くなど、バラエティに富んだ内容となりました。



◎保健学科においては、「保健学科案内ツアー」、「実験・実習体験コーナー」、「デモンストレーションコーナー」で各専攻の特徴を実体験できる機会を設けました。また、「保

健学科入試・カリキュラム・卒後の進路等の相談コーナー」のほか、「卒業生と語ろうコーナー」、「在学生による入試体験談や学生生活相談コーナー」の中で卒業生や在学生との触れ合い、入学後や卒業後のイメージを抱いてもらえるように工夫しました。

★看護学専攻では、9つの参加型模擬講義を延べ163名にも上る学生ボランティアの協力を得て開催しました。参加者は、教員や先輩



模擬講義の様子

の説明に耳を傾けながら、日ごろ体験できない様々な看護技術を体験し、生命が誕生する不思議さや老いるということ死についてなどについて興味を示していました。

★放射線技術科学専攻では、大学院生を含め総勢38名の実行委員会を組織し、学生中心にツアーや実習デモンストレーションを企画・準備しました。その中には“被ばく!?”

放射線を計ろう”と題し、震災後1年以上経過した今、もう一度正しく放射線を考え、今なお気になる放射線量を量るコーナーを設け、来場者の関心を集めました。



放射線を考えるコーナー

★検査技術科学専攻では、4つの実習体験コーナーと4回の模擬講義を企画しました。3年生を中心とした40名の学生ボランティアがツアーの引率や案内係を、8名の大学院生が実習体験コーナーを担当しました。学生や大学院生の丁寧な説明や検査の実体験を通して、病院で行われている検査が少しは身近なものに感じられたことと思います。

私の大学生活

東北大学に入学して1年半以上が経ちました。入学してからの時間は本当にあっという間でした。合格発表直後に東日本大地震が起きたこともあり、最初は不安でいっぱいだったのが、ついこの間のようですが、今では仙台での一人暮らしにもすっかり慣れて、楽しく充実した日々を過ごしています。

一年生の間は、大学の寮であるユニバーシティ・ハウス

医学部医学科2年

植木 有理子



三条に住んでいました。他学部の人やインドネシア、中国、ベトナム、オーストラリアからきた留学生の人たちとの共同生活は、思い返してみると、楽しく私の視野を広げるきっかけにもなり、貴重な体験ができた1年間でした。

二年生になり、今年の春からは専門の授業が本格的に始まりました。専門科目は、教養科目の授業よりも内容が高度で難解です。覚える量も膨大なために苦勞することも多

いですが、どの科目の授業も大変面白いです。そのなかでも現在行われている肉眼解剖学実習は、夜遅くまでかかることもあり大変なこともあります。しかし、毎回驚きと発見の連続で非常にやりがいがあり、実り多い実習です。

また、私は現在、医学部軟式テニス部に所属しています。高校まではオーケストラクラブに所属し運動とは全く無縁の生活を送ってきました。ところが、初日のオリエンテーションの際に医師になるには体力が必要だとの話を伺い、運動部に入ることを決意しました。2週間行われた新入生歓迎会では色々な部活の体験会に参加し、これまで一度もプレーしたことがなかった軟式テニスを始めることにしました。テニスをはじめて1年以上経ちましたが、なかなか

上達せず、練習の度にもどかしさを覚えます。そうはいつでも、高校までの文化部とは違った運動の楽しさにすっかりはまってしまいました。他大学との練習試合や大会も定期的であり、それ以外にも、芋煮会という仙台独特の楽しい伝統行事などもあり、先輩や後輩と交流する数多くの機会があります。

振り返ってみると、勉強や部活などで忙しい日々を過ごしていると感じますが、これからも学生でいる間でなければできないことや仙台でなければ体験できないことにチャレンジして、これまで以上に充実した大学生活を送りたいと思います。

東北大学に入学して

医学部保健学科検査技術科学専攻3年
長谷部 仁美



つい先日入学したばかりのような気がするのですが、早いもので大学生活も3年目となりました。日々自分に課せられた課題をこなすのに精一杯ではありますが、部活動やアルバイトなどと両立させ、充実した毎日を過ごすことができています。

授業内容は、3年生にもなりますと専門科目のみで、それに加え、ほぼ毎日学内実習を行っています。いよいよ臨床検査技師となるために本格的な勉強をしているのだと実感するとともに、自分の将来について真摯に向き合うようになりました。

私のクラスメイトは勉強熱心で向上心の高い人々ばかりで、様々な考えに触れることができとても良い刺激を受けています。そして先生方も学生に対して熱心で丁寧な指導をしてくださる方ばかりなので、自分は恵まれた環境にいるということを痛感し、嬉しく思っています。少しずつ、しかし確実に卒業が近づいてきていますが、これからもお互いに刺激しあいながら、最終的には全員で国家試験に合格することを目標に勉強に励んでいきたいです。

今年は、夏にオープンキャンパスの実行委員として活動しました。1から計画したり作ったりというのはなかなか

大変であり、また、自分たちの良さを自分たちの言葉で伝えるというのは難しいものでした。2年生の後期から長い時間をかけて計画をし、様々な困難もありましたが2日間を無事終えることができた時の達成感は何とも言えないものでした。1人ではできないことが皆で協力するとやり遂げられるということを経験できた貴重な機会でした。

また、私は今まで部活動にも力を入れてきました。ちょうど先日、1年間務めてきた幹部としての役目を後輩に引き継ぎ、肩の荷が下りたところです。大人数を抱えている部活動なので仕事をこなすのに苦労することもありましたが、部員は思いやりのある人ばかりで、自分が助けられることや得ることのほうが多く、本当にいい経験をさせてもらえました。今後も楽しく、さらに上達することを目指して卒業まで活動していきたいです。

自分でも驚くほどに内容の濃い日々であり、このような生活ができてるのは両親の支えがあってこそだと思っています。東北大学への受験を勧め、そして進学させてくれた両親には本当に感謝しています。これからも卒業までの一日一日を後悔しないように、力余すことなく過ごしていきたいです。

医学分館の学習用図書の整備・充実について

東北大学附属図書館医学分館長
柴原 茂樹

医学分館は、医学系の図書館として、星陵キャンパスに所属する学生及び教職員の方々に、研究及び教育に必要な図書や学習環境を日々提供しています。

医学系の図書は単価が高く、頻りに改版されるため、いちどに整備することが困難です。ここ数年に受入した新刊本の割合も、蔵書の2割程度にとどまっており、新刊本をよく利用する学生にとって、まだまだ十分な学習環境とはいえません。



寄贈された図書

そのような状況から、医学部後援会にお願いしたところ、昨年度に引き続き増額して図書購入のご支援をいただきました。

これにより、医学分野『休み時間の免疫学』ほか51点、看護分野『カラー写真で学ぶ子どもの看護技術』ほか33点、放射線技術分野『診療放射線技師ブルー・ノート：基礎編』ほか9点、臨床検査分野『病理診断コンパクトナビ』ほか11点、新刊本合計108点を整備できました。寄贈図書は、エレベーター脇に昨年12月10日から展示しています。

これから試験シーズンを迎えます。上記の図書に加え、医学分館では、昨年度から国試コーナーを設置し、10月1日からは星陵地区所属の学生・教職員を対象に、朝7時から時間外利用が可能になりました。自学自習の場として環境整備して、館員一同お待ちしておりますのでぜひご活用ください。

この度はご支援いただき、ありがとうございました。この場をお借りし、改めて感謝とお礼を申し上げます。



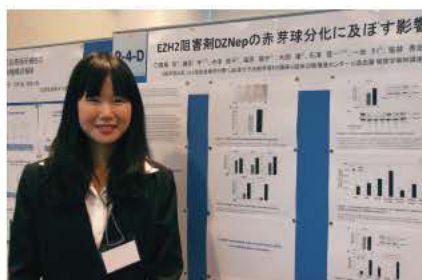
閲覧風景

第6回リトリート大学院生研究発表会について

第6回リトリート大学院生研究発表会
実行委員会

去る、1月19日（土）に医学部後援会の御後援により東北大学片平キャンパス「さくらホール」において、『第6回リトリート大学院生研究発表会』が開催されました。

リトリートは、医学系研究科の大学院生が主体となり自ら企画や運営を行い作り上げる研究発表会で、大学院生だけでなく医学部学生にも毎年参加していただいております。第6回を迎えた今年度は、東北大学の震災からの復興を若手研究者の手でこれまで以上に躍進していくための機会にしたいという思いから『創造から発信、そして未来へ～明日の医学を創る若手研究者の輪～』というテーマのもと開催いたしました。



今年度のリトリートは、実に演題数72題（口頭発表20題、ポスター発表52題）、参加者数151名と例年に匹敵する盛況ぶりで、若々しさと情熱に溢

れる発表会となりました。

当日は雪がちらつく生憎の天気ではありましたが、幅広い分野の若手研究者の方々に多数御参加いただきました。会では未成熟ながらも創造性や将来性のある発表と活発な議論が繰り広げられ、前途有望な若手研究者達の明るい未来が垣間見られたことと思います。

また、本リトリートには毎回、医学部学生からも積極的な参加をいただいております。今年度も3名がポスター発表を行いました。大学院生に勝るとも劣らない大変に素晴らしい研究発表であり、その活躍に対して医学部後援会より優秀学生賞が授与されました。

末筆ではございますが、本リトリート大学院生研究発表会の開催にあたり、御支援、御協力を賜りました皆様方並びに御来場いただきました皆様方に、この場をお借りして実行委員会一同心よりお礼申し上げます。



東北大学医学部後援会主催「入学記念祝賀会」の御案内

平成 25 年 4 月に東北大学医学部（医学科・保健学科）に入学する新生及び保護者を対象とした「入学記念祝賀会」を開催いたします。

当日は、在学中の勉学や学生生活などの様子について医学部教職員及び在学生との懇談が行われます。

つきましては、後援会会員の皆様におかれましては、後援会会員同士が集う良い機会と思われまますので、会員同士お誘い合わせのうえ、是非、御出席くださるようお待ちしております。

医学部後援会 事務室



- ★ 日 時:平成 25 年 4 月 4 日 (木)
午後 1 時から (2 時間程度)
- ★ 会 場:江陽グランドホテル・鳳凰の間
(仙台市青葉区本町 2 丁目 3-1 TEL:022-267-5111)
- ★ 祝賀会の主な内容
 - 医学部長挨拶
 - 後援会会長挨拶
 - 来賓等の紹介・祝辞
 - 祝宴・懇談
 - 医学科及び保健学科の紹介・説明 など
 - 在学生から歓迎挨拶
- ★ 会 費:無料です。
- ★ その他:軽食及び飲み物を準備しております。
:事前のお申込みは不要です。

編集後記

今後、生涯忘れることのできないであろう、あの 3 月 11 日東日本大震災発生から丸 2 年、被災者を始めとする多くの皆様、そして地域が必死に復旧・復興に努力を傾けています。しかし、未だに確かな将来図を描ききれていないのが現状と思われます。それでも後ろばかり見ているわけにはいきません。明日を



仙台城跡は、初代仙台藩主伊達政宗が、1610 (慶長 15) 年に築城した。往時の建物は残っていないが、長い歴史が刻まれた石垣と復元された大手門櫓構等が城を偲ばせている。

信じ前に進まなければ未来は開かれないでしょう。

まもなく新年度、希望と夢に溢れた新生が医学部に入学してきます。発足 6 年目を迎える医学部後援会は、新生の皆様への入学を心からお慶び申し上げ、入学後の学生生活の支援の一助を担えさせていただければと思っております。

本後援会は、今年も様々な学生への支援・助成活動などに積極的に取り組み、その活動状況については、会報により会員（保護者）の皆様にお知らせし、学生、保護者そして本学部教職員との交流に努めてまいります。

新年度も新生保護者の多数の皆様が医学部後援会のご加入を期待しております。

また、後援会のさらなる発展・充実のために、会員皆様からの寄稿をお待ちしております。御寄稿は郵便・電子メールで結構ですので、よろしく願いいたします。

医学部後援会 事務室



東北大学医学部後援会事務室

〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/